

わかば

2018. 8. 25
第18-17号
文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

重点目標 一人一人が輝く教育 ～期待登校・満足下校～

走り込みは、思わぬ事故、ケガを招きます。・・・学校や家庭での安全安心の指導を

中休みが近づくと少しずつ、元気な子どもたちの声が聞こえ始めます。次に、何やらバタバタと走ってくる気配を感じると、まさしく、一目散でジムに駆け込もうとする姿がチラホラと現れます。

当然ながら、「廊下は走らないでください！転んだりするから危ないよ」と、声を上げますが、すでに遊びたい一心の心と体には響かないことが多くあります。中休み初めは、遊びたい一心のおもいが「急がねば」「走らねば」となり、子どもを走り出させるようです。

しかし、中休みが終わると、不思議なもので走って学級に戻る子はいません。遊び終わったので「急がねば」「走らねば」の心理が働かないのでしょうか。「走らない！」などと言う必要は全くありません。

さて、学校は、安全安心の場でなければなりません。転んだりぶつかったりして、歯を折ったり骨折したりする不測の事態を招きます。

また、自分自身だけでなく、他の児童生徒を事故やけがに巻き込むこともあります。学校では、なぜ走ってはいけないのかをあらためて考える指導を行いましたので、ご家庭でもご指導をお願いいたします。



周りを見てない。危ない！

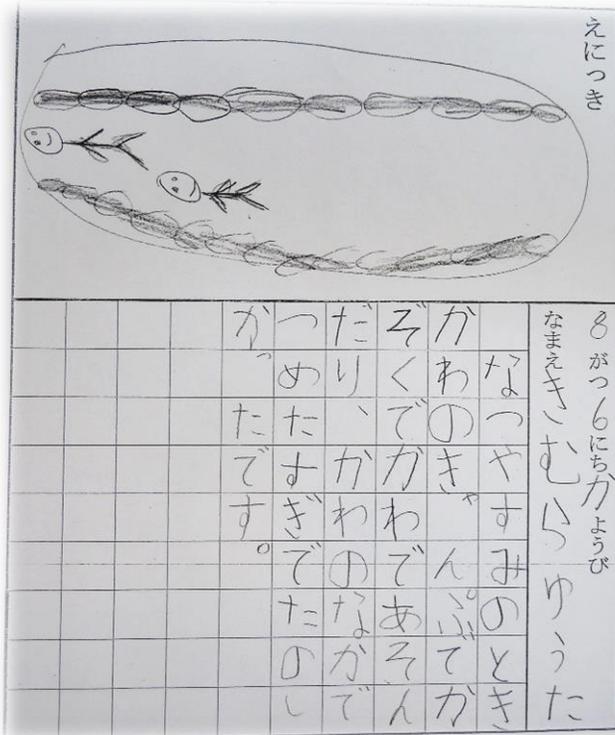
「どうして一斉に戻るの？アメリカの学校では考えられない」・・・児童生徒の違い？

先日、警備員が「いくつも現地校を見ているが、休みが終わっても遊びを止めず、クラスに戻らない子が多いのに、日本人学校の子はすぐに戻っていく。なぜなの？」と、不思議そうに事務職員に尋ねたそうです。どう答えたらいいのでしょうか。学校文化や学校教育の違い、躰の違い、生活文化の違い？「そうするものだ」と、継承されてきた日本人ならではの行動様式？でしょうか。

日本人は、「時間に正確」「時間を重視」「時間で動く」と言った文化背景、教育背景、躰背景があると思います。例えば、日本国内では、夏休み前にはよく「夏休みの一日」を書かされたものです。何時に起きて、顔を洗い、何時何分から朝の学習をして・・・と、時間とともに行動する習慣を育てられた保護者の方も多いことと思います。家庭での躰でも、何時に風呂に入り、何時までには寝るなどが例にあげられます。

学校では、遊びと学習の切り替えを促すためにチャイムがありますが、チャイムがないと動かない面があるとして、最近では、自主的な行動ができるようにと、ノーチャイム制を導入したり、チャイム数を減らしたりする学校が増えつつあります。答えにならない答えですが、チャイムで戻るのが当たり前として生きてきた者としては、「文化の違い」「国民性の違い」としておきます。





子どもたちが描いた絵と照らし合わせながら、文を読むと実に楽しいですね。

これが「ねているラッコだな」、そして、これは「川に浮いているところか」、「強そうなパイソン」「大きすぎではみ出しそうな大仏様」「楽しいバラエティー番組かな」など、楽しく読んだり、想像したりできるのが絵日記の良さでしょう。

日本やアメリカ国内の旅行をとおして、たくさんの楽しさ、喜びを味わいしっかりと絵日記に書けるほどの思い出になったようです。

保護者の皆様、ご家族の皆様、大変ご苦労様でした。しっかりと子どもたち一人ひとりの心に伝わり、いい思い出になっています。

1ねん きむら ゆうた



WACOMとPNFへの見学

六年 中村 歩高

ぼくたちは、日本人学校で、はじめて社会科見学に行きました。この見学では、二ヶ所へ行きました。「WACOM」という場所と、「PNF」という場所です。

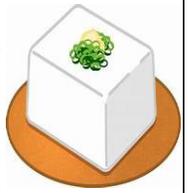
最初に行った場所は、PNFです。PNFは、豆腐と豆乳を作る会社です。この会社の特別なところは、豆腐の作り方と豆腐の賞味期限です。この豆腐の賞味期限は、一年ほどもちますが、ふつうの豆腐は一週間ぐらいしかもちません。この豆腐は、長期保存可能なのです。どうやって長期保存可能にするかというところ、フィルターをとおして、細菌ゼロにしているのです。また、商品の箱の中を真空状態にして、長期保存可能にしているのです。

PNFで習ったことは、いろいろとあります。たとえば、大豆の若いころは、えだ豆だと知っていましたか？ぼくは知りませんでした。あと、アメリカが一番大豆ができる国で、日本の大豆の輸入品の七十パーセントはアメリカなのです。ブラジルは二位に大豆ができますが、日本へ送れない理由は、赤道を通るからです。

次に、行った場所は、WACOMです。WACOMとは、「ワールド」と「コンピューター」をつなげたもので、意味は、人とコンピューターをつなげることです。

また、WAの世界を「和」とかけているものです。ここでは、習うというよりおもしろい経験でした。WACOMは、絵をタブレットなどで書くときのためのタッチペンを作っています。ここに来た時、映画を作っている人が来ました。その人は、WACOMのペンを使って、映画のキャラを3Dで作りました。最初は正方形だったのに、まさかキャラになるとは思いませんでした。

日本人学校での社会科見学はおもしろくて、いろいろ習えるのでとてもいいと思います。



社会科見学

六年 鈴木 柚陽

私は社会科見学で森永乳業の豆腐を作っている工場とワコムに行きました。午前中に豆腐工場に行つて見学しました。私のクラスは先に説明がありました。その時に、クイズもありました。豆腐はどのように作られているのかを学びました。工場見学の時、工場の中はすぐくうるさかったです。機械の音がしました。

私が見学の時にももしろいと思った事は、賞味期限の付け方です。箱に賞味期限を付けているときに赤いレーザーみたいな物を出して箱に付けます。おもしろかったです。

午後は、ワコムに行きました。ワコムは日本の会社です。ワコムのワは漢字で和、コムは、コンピュータのコンです。ワコムで一人のお兄さんがタッチペンを使って顔を作ってくれました。その顔は本物の顔ではなく、コンピュータの3Dで作られた顔です。その顔は自分で好きな形の顔にできます。その人が作った顔は、おもしろかったです。

ワコムでクイズがありました。クイズに正解したら賞品がもらえることでした。でも、私は答えられませんでした。英語がわからなかったからです。でも、楽しかったです。

先日行った「社会科見学」

六年 古田島 謙太郎

社会科見学はとても楽しかったです。一番最初に行った所はとうふ工場です。どうやってとうふを作っているかを教えてくれてうれしかったです。とうふにどうにゆうをあたためて、とうふになっている事を習いました。しかも、いちばん最後に、おみあげのとうふをくれました。もちろん、家に帰ったら、とうふを家族と一緒に食べました。

次は、WACOMに行きました。WACOMはWA(和)とCOM(コンピュータ)をつなげた事です。WACOMはペンタブレット、スタイリストとかをつくっています。コララインはLAIK Aがいちばん最初に作った映画です。ペンタブレットを使って、キャラクターを作っています。すごいです。

ぼくもペンタブレットがほしかったです。帰ったら、ちよつとくやしくなりました。先日行った「社会科見学」は、とても楽しかったです。



日本国内の小学校児童の楽しみは、友達との遊びや給食であったり、一緒に勉強することだったりします。社会科見学のように、教室を離れて、行ったことのない名地に行き、観たり聞いたりすることは、本当に大好きです。

行く段階から子どもたちはワクワク感を抱いてバスに乗り、日頃見られない物に出会い、記憶のスイッチが入るようです。メモの取り方も早くなります。報告文を書く際は、見学の場面やキーワードからたくさん書くことができます。

今回も細やかなところまでよく覚えているなと感心させられます。喜びや感動が、子どもたちの鉛筆の走りを滑らかにするようです。

カフェテリアの作品展示

日本の学校や自前の学校であれば、教室内にたくさんの作品掲示ができますが、借用校では自由が利きません。それでも多くの作品を掲示し、子どもたちや保護者の皆様にもご覧いただければと願っています。

小学部6年の国語科「ようこそ、私たちの町へ」(住んでいる町や住んでいた町などを紹介する作品)をカフェテリアに掲示しています。6年1組が終わり、次は6年2組を予定しています。

